

平成28年度岡山ESD推進協議会  
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 英語で地球を学ぼう

団体名 岡山ユニセフ協会 担当者名 守都

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

① 日時：2016年7月25日（月）10:00-12:00

場所：岡山ユニセフ協会（岡山市北区丸の内）事務所

参加者：中学生 8人、高校生 9人、おとな 2人

内容：夏休みボランティア希望の中高生を対象に、私たちの暮らしと環境問題の関連性と、環境問題が地球規模でどのような影響を与えているのかを、ユニセフの視点から英語教材を使って学習した。

地球規模の気候変動により、水へのアクセス、農作物への影響、住居の喪失、衛生環境の悪化など、子供たちがさらなる危機にさらされている事例を取り上げ、環境問題が与える影響は平等ではないことなどをジェンダーの視点も交えて学習した。環境問題の影響を直に受けて育っていく中高生たちの行動や発言が重要になることから、私たち先進国の責任や、一人ひとり実践できることなどを考え話し合った。

プログラム：

- ・ 自己紹介とアイスブレイキング
- ・ ユニセフがスカウト向けに作成した気候変動の教材をもとに、今地球で起きている環境問題にはどんなことがあるかを挙げてもらい、それを英語で言うと言いかを考えてもらう。（正解を示す）
- ・ 次にそれらの問題が他の問題とどのように関係しているかを考え線でつないで発表してもらう。
- ・ 最後にこれらの問題が私たち自身の暮らし方とどのような関係にあるかを考え、グループごとに発表してもらう。
- ・ 振り返り、まとめ

② 2016年7月26日（火）10:00~12:00

場所：岡山ユニセフ協会（岡山市北区丸の内）事務所

参加者：中学生 7人、高校生 10人、おとな 2人

内容：・プログラム：同上



③ 日時：11月27日（日）11：00～12：00

場所：岡山ユニセフ協会（岡山市北区丸の内）事務所

参加者：年長～小学校3年生6人、おとな2人

内容：12月に実施するハンド・イン・ハンド街頭募金に参加希望のガールスカウトのメンバーを対象に、環境問題や開発問題について、主に日本語で学習した。気候変動や貧困、戦争や災害等により影響を受ける子どもたちの現状をしり、一人ひとりにできることを考え話し合った。

④ 日時：2016年12月17日（土）12：00～13：20

場所：岡山ユニセフ協会

参加者：高校生37名

内容：環境問題や人道問題等についてユニセフの英語のDVDと教材を用いて学習した。地球規模の気候変動がもたらす様々な影響を知り、自分たちにできることを考え話し合った。遠くまで水汲みに行かなければならない子供たちが担いでいる水がめを実際に担いで体験したり、気候変動などの影響で作物が育たず栄養不良に陥っている子どもたちや、貧困などにより十分な栄養が摂れていない子どもたちの診断に用いるメジャーなどを手に取って、どのくらいやせ細った危険な状態かを視覚的に確認したりしてもらった。そしてこうした気候変動や開発途上国の貧困の多くが先進国の豊かな暮らしと密接に関係していることを知り、日本でくらす私たちに課せられた責任について考え、行動していくことを確認した。





2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

私たちの日々の豊かな暮らしを支えるために、負の影響を受けている様々な地域が存在していることを知り、私たちの地域のくらしや社会の未来を考えると、開発途上国が直面している環境問題や人道問題も一緒に考え地球規模で解決を模索していく必要があることを皆で確認した。またそのためには、一人ひとりがアンテナを広げ、知識を深め、積極的に意見を発信し行動していくことが重要であることを再認識し、学生同士で意見を交換した。

3. 取組の成果 (参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

参加者は、第一回の学習会後に開催したユニセフのつどいにも参加し、岡山大学元学長の千葉先生 (前岡山ユニセフ協会会長) による環境問題に関する講演会を聞き、学んだ知識をさらに深めることができた。これにより、地球規模で環境問題について考えるときにどのような視点が大切か、それぞれの立場でできる活動が多くあることを知った。参加者の感想の中には、「身近なところから考えられるようになった」といったものや、「自分のためだけでなく世界全体として考え行動していきたい」といった、地球規模の問題を自分事として捉え始めた参加者が多くいた。

第二回と第三回の学習会後は、実際に街頭に立ち、学んだ知識を生かして募金の呼びかけを行った結果、より積極的に協力を呼び掛けたり、学んだことを短いメッセージにして発言する学生がいたり、学習会で学んだことが行動を変えていく一つの事例となった。参加者の感想の中には、「周りがなんとかしてくれるのではなく、自分の考えと行動を変えていかなければならないと感じた」といったものや、「まずは自分が知り、そして周りにも知らせ、世界規模で助け合い支えあえる関係を作っていくことが大切だと思った」といった意見が寄せられ、意識の変化が顕著にみられた。

4. 今後の課題と展望

一連の学習会とそれに付随する講演会や街頭募金への参加は、世界に関心を持ち、学び行動するためのひとつのきっかけとなったことと思う。しかしながら、今回、参加者の英語力がばらばらで、当初予定した内容を英語で学習することは難しく、予定を変更せざるをえなかった。また時間が足りず、年度末に「学んだことを発表する場を設ける」まで至らなかった。今後の課題として、留学生など岡山に住む外国人と中高生が交流して理解しあう機会をつくること。学んだことを発信していく場を作っていくことが、こうした活動を継続していく上で重要だと考える。来年度も引き続き、さまざまな年齢や立場の方々と学びあう場を共有し、よりよいまちづくりやよりよい社会づくりに向けて考え行動していきたいと考えている。